

## 「サンゴの産卵」

喜界島ジオパーク推進協議会 統括専門員 鈴木倫太郎



奄美地方の梅雨が明けた6月23日、夜の花良治集落の海岸では、サンゴが産卵する時に漂う独特の匂いに包まれていました。東の空から月が登り始めた満潮の午後10時頃、私たちは海岸からタンクを背負い、真っ暗な海へと入って行きました。潜航しながら進んで行くと、サンゴ礁の夜の世界が見えてきます。そこでは、ウミガメが眠っていたり、夜行性のハタンポの大群が泳いでいたり、昼の海とは違った表情を見せてくれます。潜り始めてしばらくは、サンゴの産卵は見られません。私たちは海の中で、夜のサンゴ礁の世界を楽しみながらその時を待ちました。潜り始めて30分、目の前を白っぽい粒がいくつか漂ってきました。サンゴの卵です。卵が漂ってくる方向に進んで行くと、サンゴが一斉に卵を放出しています！大産卵です。枝状のミドリイシのサンゴの表面から、たくさんの卵が湧き出して水中に漂っていきます。卵は潮の

動きに大きく左右に揺られながら、ゆっくりとゆっくりと海面に浮かんでいきます。周りを見渡すと、他の場所でも散乱しているサンゴ達があります。夜の海は、卵が雪のように舞う幻想的な世界に包まれていました。

喜界島をとりまく海には、色とりどりのサンゴが息づいています。動物であるサンゴは、自分の遺伝子を広範囲に残すため、年に一度産卵します。喜界島では、毎年6月の終わりにサンゴが産卵している様子が見られます。この時期の約一週間の間は、毎晩いろいろな種のサンゴが産卵しています。喜界島サンゴ礁科学研では、毎年サンゴの産卵調査を実施し、今年も産卵を確認することができました。海中で放たれたサンゴの卵は、海面に浮かんで漂います。早町港では6月25日に港内に漂った卵が打ち寄せている珍しい様子を見ることができました。

隆起サンゴ礁段丘の島である喜界島は、海の中で生きるサンゴがサンゴ礁を造り、隆起して喜界島がで



早町港に流れ着いたサンゴの卵

きました。喜界ジオパーク（構想）のロゴマークにあるサンゴの周りの白い丸は、サンゴの産卵を表しています。サンゴの産卵は、10万年よりも昔から喜界島の海で繰り返され、喜界島の大地を造る源になってきました。いまでも、その活動は脈々と続いています。サンゴの産卵は、喜界島が命を繋ぎながら成長し続けた証です。これからも、この美しい海でサンゴの産卵が続き、喜界島が成長し続けることを願いたいと思います。